

書しむ此歌の註は出べき入事いゝもの也又此解誤字は
多くく重んずるに書さるゝ慈鎮和尚鷹百首の中にも
此ありを望みたりしを鷹は軒とるのまゝあるやとて
ともあり當此歌も合く考ふべし塙本ある二句軒殿と記
四ノ句落も軒と也と凡武鷹書は昨日まで野んありは
鷹はつゝつゝあつゝのささう川也是ハ鷹堂の歌は狩場
軒とありしを別ある鷹のささう也と註を又一説は野際
とも心得べしつゝあつゝ鷹はともは後を時地際と
ささうの也是を地際と云うともは君侯云なれしを鷹ハ
極くともはつゝつゝ時地際とあるやとてつゝつゝの也と